



2020.10 No3

# はたけ便り

NPO 法人みんなのプロジェクト  
福岡市早良区梅林6-23-3  
Mail: hatakenoie2020@gmail.com

## 「立ち現れる `意思、`」

水野 英尚

人生最終段階において、どのような治療やケアを受けたいのかを話し合う「アドバンス・ケア・プランニング」(ACP)というものが、近年は医療分野で頻繁に言われるようになりました。国(厚生労働省)もこれを「人生会議」と愛称付け、アピールしています(芸人を起用したポスターは批判的でしたが…)。病気などにより生命の危機に瀕し意識障害が起こり、その時に本人が望んでいない治療やケアを受けないために、事前に本人の意思を確認していく、「意思決定支援」が必要だと言うことです。それは、自分の人生の最後をどう過ごしたいのか、とことん本人や家族、医療者や事業者たちと話し合いをすることなのですが、しかし、それは必要なことで、大切なことなのだとして理解はしても、ハタと立ち止まり考えてみると、国や医療の側から「さあ、人生会議をしましょう！」などと言われるようなことなのだろうか？と思うのです。つまり、一人の人生というものは、固有で唯一無二のものであることは言うまでもないことですが、ここでアピールされる「人生」が、国や行政が得意としている統計的な公平により、人間の臓器別に分類された `医療、` によって描かれた「人生」であるなら、とても平面的で画一的になっているのではないかと危惧します。私たちの人生は、通りすがりのお偉方や〇〇専門家が語れるようなものでなく、生活の中で一緒に歩んできた家族や仲間と呼べる支援者たちと共有していく中で、そうした関係性の深まりによって、おのずと立ち現れていくものではないかと思います。そのためにも私たちは、自分の人生について「〇〇が決めてくれる」「〇〇にお任せ」でなく、もっと責任を持たなければならないのかもしれない。

「SharedHome はたけのいえ」での重い障がいのある彼(女)たちの暮らしは、何もない `箱、` (住宅)の中に、自分を看護・介護してくれる支援者は？、今日食べるものはどうする？、洗濯物は外に干せる？・・・



この年金で暮らしていける・・・？そうした生活(人生)一つひとつの疑問を、空っぽの箱の中に入れ、あーでもない、こーでもない語り合い、何もないところから一人一人のオリジナルな生活(人生)をくみ上げていく、そんな良く言えばクリエイティブであり、悪く言えば不安定な暮らし方をしていく試みです。そして何より、ここでの暮らしの中心は、自分自身の生活の全てを開示(胃の中身まで!)しながら、言語で主張しなくとも、内面に秘めた思いをじっくりと開花させる`時、を待つように過ごす、彼(女)たちの存在です。この空間は、「さあ、人生会議を開きましょう!」と掛声はなくとも、自然体でそれぞれの`人生、について、日々の日常の風景の一部として物語られます。支援者となって繋がり関わる一人一人もまた、自分の価値観や人生観が、彼(女)たちの存在によって揺さぶられ、問われていくように思います。重い障がいのある彼(女)たちの`意思、と共に、私たちの`意思、もまた、そうした関係性の中から立ち上がってくるのだと、あらためて教えられ続けています。

## 「SharedHome はたけのいえ」ボランティア募集！！

～あなたの`お時間、少しいただけませんか？～

連絡先:090-7921-7584(水野)

サポーター会員の登録ありがとうございました。

訪問看護ステーションヒカリエ様、田沼洋子様、原田 賢様、林 菜保子様、西本昭子様、児玉隆志様、児玉洋子、松岡 望様、かたえキリスト教会様、中村美知野様 (順不同)



ご寄付をありがとうございました。

松坂克世様、松坂有佳子様、水野英尚様

(順不同)

